

単収 200kg/10a 以上の確保、大粒比率向上に向けて

■ 播種までの技術ポイント ■

- 1 排水対策 : 額縁排水や心土破碎等による早期の排水対策の徹底
- 2 土づくり : 石灰質資材や有機物の施用
- 3 適正な播種 : 耕起～播種の一連の作業は1日で実施、碎土率の向上
(出芽・苗立ちの安定) 播種深度 3cm の徹底、基肥量の確保

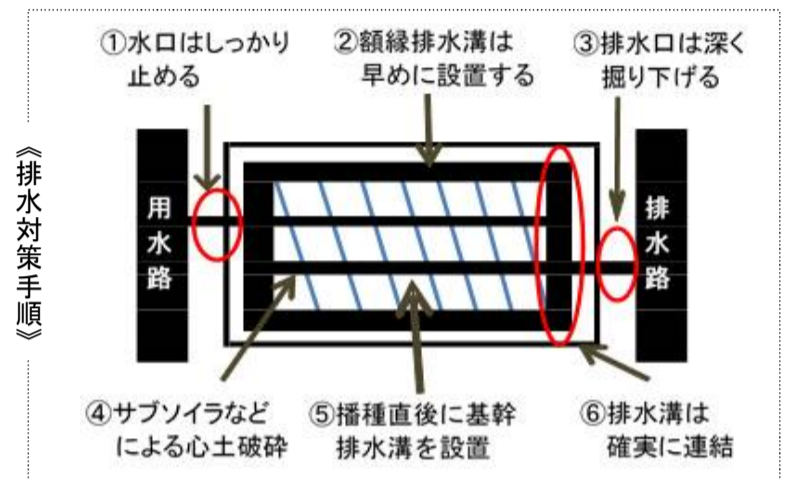
「排水対策」
「土づくり」
「適正な播種」等
基本技術の徹底で、
出芽・苗立ちの安定と
初期生育を確保!!



1 排水対策

～ 播種前の排水対策は万全に！ ～

- ① 額縁排水溝は、幅 30cm、深さ 20cm 以上を目安に設置し、播種直後に溝の手直しを行い、確実に排水しましょう。
- ② 透水性の悪い圃場は、心土破碎により排水を改善しましょう。
(弾丸暗渠の目安：間隔：3～5m、深さ 30～40cm 程度)
- ③ 隣接水田や用水路、水口からの漏水を防止しましょう。



2 土づくり

～ 有機物の投入と土壌 pH6.0～6.5 を確保！ ～

- ① 地力向上のため、堆肥等の有機物を積極的に施用しましょう (表1参照)。
- ② 耕起前に必ず苦土石灰を 100～200kg/10a 施用しましょう。
- ③ ヘアリーベッチをすき込む場合、大豆播種の1週間前までに行いましょう。

■表1 堆肥の施用量目安

種類	施用量 (/10a)
牛ふん堆肥	1 ～ 2 t
豚ふん堆肥	0.5 ～ 1 t
発酵鶏糞	100 ～ 200kg

3 病虫害防除

～ 病虫害の発生を防止！ ～

○種子伝染性病害やフタスジヒメハムシ等の初期害虫の発生を防止するため、必ず薬剤の種子塗抹を行いましょう。

薬剤名	処理法	対象病虫害	使用上の注意
クルーザー MAXX	種子5kg 当たり 40ml塗抹 (乾燥種子1kg当たり原液8mlを塗抹)	アブラムシ類、タネバエ、 ネキリムシ類、フタスジヒメハムシ 茎疫病、紫斑病、苗立ち枯病、 リゾクニア根腐病、黒根腐病	塗抹後、種子を十分に乾かす 注:クルーザーMAXX 処理済み種子の使用において、大豆播種機の目詰まり等の事例がみられることから、その対策資材の「タルク」を使用する。

4 播種

～ 耕起、碎土・整地、播種、作溝の一連の作業は1日で行いましょう！ ～

- ① 土壌が乾いた状態で低速で耕起し、碎土率を高めましょう (耕起、碎土・整地、播種、作溝の一連の作業は1日で実施)。
- ② 目標栽植本数を確保するため、播種機の日皿やスプロケットを調整しましょう (表2参照)。
- ③ 播種時に、播種深度 3cm 程度と m 当りの播種粒数等を確認し、適宜調整しましょう。
また、欠株を出さないよう、ゆっくり歩く程度の速さ (0.5m/秒) で播種作業を行いましょう。
- ④ 土壌条件や土壌診断結果に基づき、適正な基肥量を施用しましょう (表3参照)。
- ⑤ 除草剤の効果を上げるため、碎土率を高めるとともに、播種直後に規定量を均一に散布しましょう (表4参照)。

■表2 播種量等の目安(大粒※)

品種	播種時期	目標栽植本数 (本/10a)	播種量 (kg/10a)	設定条件(条間 80cm の場合)			
				目皿	スプロケット		播種粒数 (粒/m)
					目皿側	車輪側	
エンレイ	5月25日 ～6月上旬	14,000～16,000	5.3～6.1	B-2	10～11	13	12～14
				B-22	14	9～10	
	6月中旬	16,000～18,000	6.1～6.8	B-2	9～10	14	14～17
				B-22	13	10	
シュウレイ	5月25日 ～6月上旬	12,000～15,000	4.7～5.9	B-3	10～11	11	11～13
					11	13	
	6月中旬	15,000～18,000	5.9～7.0	B-3	10	13～14	13～17
					9	14	
オオツル	6月上旬	10,000～12,000	4.4～5.3	B-3	13	11	9～11
					11	10～11	
	6月中旬	12,000～14,000	5.3～6.2	B-3	10	11	11～12
					11	13	

※ 百粒重は、エンレイ 34.2g、シュウレイ 35.1g、オオツル 39.7g で計算(苗立ち率 90%の場合)

注: 昨年、播種が早い地域で青立ち株の発生が多発したため、極端に早い播種は避ける。

■表3 基肥施用量の目安

土壌条件	N	P	K
	(kg/10a)		
砂壤～壤土	3～4	5～8	7～10
植壤土	2～3		

注: 麦跡の場合は N 量をそれぞれ 2kg 多くする。

■表4 除草剤(土壌処理剤)散布量の目安

除草剤名	散布量 (/10a)
トリアノサド粒剤 2.5	4～6kg
ラクサー粒剤	4～6kg
ラクサー乳剤	400～600ml (水 100ℓで希釈)
プロールプラス乳剤	400～600ml (水 70～150ℓで希釈)